

事業報告書 (平成29年度)

事業名 親業を基に築いた心の土台づくりの人間関係の普及

団体名 いろは邑

担当者名 笹治英昭

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

平成29年12月17日(日)12:30~16:30、岡山県生涯学習センター視聴覚室で親業受講生及び一般参加者、計22名に対して、村上和雄博士ドキュメント「SWITCH」上映会と昇 幹夫医師による演題「遺伝子を目覚めさせる生き方」の講演会及び昇 幹夫医師と江崎英子講師によるトークセッションを開催した。

2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

日常、身近な人との人間関係がお互いを理解し尊重し対立が起きた時は双方共が納得、満足して解決していくような民主的人間関係を構築していくことは、ESDそのものであるという意識を持てるようになるために、伝わるようにESDの理念、目的に触れながら取り組んだ。

日頃から愛と信頼の相互理解の人間関係を保っていくことがESDに繋がることをより具体的に伝わる形にしていくように見直した。

3. 取組の成果(参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

- ・ 自分自身を見つめ直し、自分の人生・子育てを振り返る機会になった。人間関係・子育てが劇的に改善された。
- ・ 親も子供も、人の心・命、自然環境、地球、未来に関心を持つようになった。
- ・ 日常の暮らしを見直すことが出来た。
- ・ ESDの活動に直接参加している時だけでなく、ESDの視点を意識しあるいは無意識に行動していると思うことが増えた。
- ・ 地球のあらゆる命について想いを寄せるようになった。
- ・ 遺伝子の仕組みや真実を知ることが出来た。

ここまでの参加者の感想

- ・ 親も子も自己肯定感が高まり他者を尊重し、あらゆる生命を大切にしようとするESD理念に沿った活動となっている。
- ・ ESDの基盤は人間関係を一人ひとりが自分らしく生きる盤石にしていく必要性があると確信が持てる実証を参加者の皆さまから得られた。
- ・ ESDの普及活動に貢献していると確信できた。

(様式第8号)

- ・ 真実を知り、伝えることで各々が自分の生き方を見つめ直すと人は自ずとE S Dの目指すところに向けて貢献していくものなのだとの実証ができた。

4. 今後の課題と展望

- ・ E S D活動を実際に行っている人たち、E S Dの普及活動をしている人たち、岡山市職員（E S D推進課）の人たちに参加していただくには、どのように工夫すればよいか、今回も参加がなかったのが今後の課題である。
- ・ 教育機関（学校関係、幼稚園、保育園等）との連携。
- ・ 行政との共働
- ・ E S D活動をしている人達との連携
- ・ 人間関係が人格や人生の形成の基盤であり、社会の基盤でもあるという根本、人間関係が改善されると現代のあらゆる問題が解決することを多くの人に気付いてもらえるような活動を展開していく。